

（公財）神戸大学六甲台後援会だより（79）

2024年に入ってから、国立大学の授業料についてニュースに取り上げられる機会が増えています。4月に、文部科学省が外国人留学生に求める授業料の上限が撤廃され、自由に定めることが可能となりました。中央教育審議会の議論では、国立大学の学費を年150万円に上げるべきだという提言が議論を呼んだことも記憶に新しいです。より大きなインパクトがあったのが、東京大学が授業料を次年度より2割引き上げることについて発表したことでしょう。5月に検討が報じられ、9月には正式決定されました。現在、国立大学の授業料の標準額は、年間53万5、800円です。各大学は標準額を基準とし、その20%増を上限として年間の授業料を決定することができますが、標準額より高い授業料が設定されている大学は限られています。標準額は2005年に値上げされてから20年近く据え置かれており、結果として、大多数の国立大学の授業料は維持され続けてきました。

国立大学以外の場所でも、大学の授業料がニュースとなっていくことに気づきます。例えば、英国では、英国人学生の授業料の上限額が9、535ポンド（約190万円）に値上げされるといふ報道がありました。英国の大学の場合、海外留学生に対する授業料を高額にすることにより大学財政を維持してきたものの、ブレグジットの影響や経済情勢の変化により、留学生収入に期待できなくなったようです。ある英国ビジネススクー

ルの大学教員からは、600から700名の1年制修士課程の学生を受け入れているという話を聞きました。その相当数が英国内学生よりも学費の高い留学生で、留学生からの授業料収入が大きな大学の収入源になっていたそうです。留学生の減少が大学財政に大きな影響を与えることが想像できます。どの国や地域においても、大学の授業料は耳目を集める問題と言えるでしょう。

日本に話を戻します。国立大学の収入は、附属病院からの収益を除くと、国庫から支出される運営費交付金と、学生が納付する入学金・授業料がその相当部分を占めております。神戸大学の2023年度の財務諸表を読みますと、附属病院収益を除いた経常収益のうち、運営費交付金、授業料・入学金が7割近くを占めていることがわかります。運営費交付金は、各大学の評価に基づいて配分される部分もあり、大学ごとに状況は多少異なりますが、全体としては減少傾向です。国立大学全体としては国立大学法人化がスタートした2004年度には1兆2、415億円だったものが、2024年度には1兆784億円へと15%近く減少しています。神戸大学においても、同じ期間で229億円から211億円へと9%ほどの減少が見られます。減少幅が国立大学全体に対してよりも小さいのは、大学に対する評価が反映されているためです。これ自体は良いことなのかもしれませんが、減少という事実は厳然として存在しています。

しかし、大学に課せられた役割や期待は、これらの収入削減とは関わりがありません。先の東京大学に関わる報道において

も、収入の増加額は大学の環境整備のために必要な金額のごくわずかしか賄えません。大学の教育機会の維持のため、授業料収入の値上げは学生支援の拡充とセットで行われることも強調されています。学生や保護者の負担増は憂慮すべき事実である一方で、授業料値上げだけでは収入不足の問題は解決できません。

収入が減少傾向にある中で、大学、そしてそれぞれの部局は様々な支出削減を行ってきました。教育水準を直接的に下げることではできませんので、そのしわ寄せは当然ながら間接部門や教員研究費に向かいます。直接的には研究費の削減や、研究資料の大学での購入停止などが多くの大学で、そして神戸大学でも行われてきました。どこどの大学で、著名な雑誌に掲載された論文を入手することさえ教員の個人負担になっている、という話は折々に耳にする話です。日常的な、また大小の研究支援や事務支援などが、教員でもできることは教員がするように、という形である種「効率化」されて行きました。デジタル化によって紙の書類の冗長なやりとりがなくなり、その面では効率化は進んでいます。負担増は続いております。

幸か不幸か、神戸大学の社会科学系部局は、逆風下にあることに疑いはないものの、その中では比較的恵まれた教育研究環境にあったといえます。その理由として、同窓生の皆様からの温かいご支援があったことは言うまでもありません。在外研究をはじめとする国際交流活動や、研究成果の発表をはじめ、研究教育活動に六甲台後援会から多くの援助を賜ってきました。過去の「六甲台後援会だより」をひもとくと、同窓生の支援の

下に本会を通じて六甲台5部局への援助が行われてきたかが詳細に記されています。これまでの皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援のお願いを申し上げる次第であります。

(経営学研究科教授 清水泰洋)

いつも皆様のご寄附誠にありがとうございます

前号でご報告させていただいた以降、11月7日現在でのご報告となりますが、多くの皆様からご寄附をいただいております。誠にありがとうございます。

金額別に、匿名様(昭59法) 千円、不動雅一様(昭41経済)、山口裕康様(昭61経営) 各5千円、匿名様(昭30法)、野間修様(昭45法)、木村三男様(昭45法)、匿名様(昭47法)、匿名様(昭58法)、城井康信様(昭34経済)、檀上晃利様(昭34経済)、五百旗頭邦夫様(昭35経済)、杉田文夫様(昭36経済)、堀野 勲様(昭37経済)、大西茂雄様(昭42経済)、久保 久様(昭46経済)、福田雄二様(昭54経済)、池田浩久様(昭58経済)、角井拓哉様(令5経済)、古瀬清人様(昭32経営)、村主慶一様(昭35経営)、匿名様(昭43経営)、水上明彦様(昭45経営)、岡 泰史様(昭46経営)、匿名様(昭49経営)、志戸雅美様(昭55経営) 各1万円、橋本 隆様(昭31経済)、吉本隆太郎様(昭40経済)、稲田禎之様(平6経済)、谷川行徳様(昭51経営) 各2万円、宇佐美禎三様(昭32経済)、匿名様(昭60経済) 各3万円、水島 昇様(昭51法)、鶴 浩一様(昭32経済)、瀧端美博様(昭49経済)、倉島鉄一様(昭35経営)、正司健一様(昭52経営) 各

5万円、木村壽彦様(昭46法)、三谷史生様(昭44経済)、宮本靖彦様(昭30経営)、宮野 淳様(昭42経営)、田邊弘幸様(昭43経営)各10万円、末廣雅彦様(昭36経済) 20万円ご寄附をいただきました。

また、毎年、社会科学系4研究科及び経済経営研究所の先生方にお願ひしているご寄附についても次のとおりいただきました。部局順に法学研究科先生方40名の12万円、経済学研究科先生方34名の10万2千円、経営学研究科先生方49名の17万4千円、国際協力研究科先生方19名の5万7千円、経済経営研究所先生方21名の6万3千円です。毎年、先生方には大変ありがとうございます。

お陰様で、本号で新たに報告できる寄附金額は183万7千円になりました。新年度4月以降の寄附金額は551万4千7百円になりました。厚くお礼申し上げます。

毎回お願ひしています寄附金の送り先は左記のとおりです。また、本財団ホームページからもご寄附(クレジットカードによるご寄附、インターネットバンキングによるご寄附等)いただけますのでご利用ください。よろしくお願ひ申し上げます。

◎銀行送金の場合(メール・電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 0098019116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎本財団ホームページからのご寄附
ホームページ「ご寄附」のWEB申込みフォームからご寄附いただけます。<https://rokkodafund.com/>

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX(078)861-3013

E-mail:koenkai@rokkodafund.com

